

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2013

2月

No.92



特集
P2・3

全社協が
生活支援活動
強化方針を決定!!



ひ孫と
いっしょ

一宮町 嶋田 シリーズ91

はたとしえ
畑 俊枝さん(79歳)

○喜満くん(3歳10ヶ月)

○天満くん(1歳9ヶ月)

はたとまなみ
畑 智臣さん・美佐子さん
■長男・次男

全社協が

(全国社会福祉協議会)

生活支援活動強化方針を決定!!

深刻な生活課題解決のために

活動強化方針(写真左)と方針決定を伝える福祉新聞(写真右)



地域の課題解決に 取り組んできた社協

これまで社協は、その時々
の地域の様々な福祉課題や住

今日の地域が抱える課題

少子高齢化の進行や働き方
の多様化、ひとり親家庭の増
加など、地域社会や家庭の様
相は大きく変わっています。

さらに、長引く経済不況や
雇用状況の厳しさも重なり、
経済的な問題を抱える人や孤
立死、自殺、ひきこもりなど
社会的に孤立する人が増加し
ています。また、虐待や悪質
商法による権利擁護の問題な
ど地域における生活課題は深
刻化し、広がっています。

昨年10月、全国社会福祉協議会(以下、全社協)が、「社協・生活支援活動強化方針」地域における深刻な生活課題や孤立防止に向けた社協活動の方向性」を決定しました。
この方針は、今日の地域における深刻な生活課題や孤立など地域福祉課題の解決に向けて、全国の社協(全社協、都道府県、市区町村社協)がどのように取り組むのか、活動強化の方向性やあり方を共有するため決定されたものです。
今月号では、この方針の内容やその方針提起の背景、そして本会の考え方をお知らせします。

民の困りごとの解決のため、関係ある住民や民生委員、社会福祉施設、ボランティアなどと協力しながら取り組んできました。

例えば昭和30年代には、ハエや蚊の駆除活動、子どもたちの遊び場づくり、時には公害問題等にも取り組んできました。

昭和54年には、今回と同様に全社協が「在宅福祉サービスの戦略」を発表し、全国の市区町村社協でひとり暮らし高齢者への配食サービスやねたぎり高齢者のための訪問入浴サービスなど、在宅での福祉サービスに取り組むことが方針提起されました。

また、先駆的にホームヘル

プサービスなどの現在の介護保険サービスの基礎となる介護福祉サービスを開発実施してきました。最近では地域のNPO団体との地域福祉活動での協働も進んでいます。

改めて社協の活動を見直すとき

今回の生活支援強化方針は、社会状況が深刻化している中で、あらためて現在の社協活動が、「住民が抱える課題の解決につながるものなのか」「社協の使命を果たすものになっているのか」ということを社協自ら真摯に問い直し、地域福祉を進める事業や活動の強化を図るためのものです。

また、厚労省においても生活困窮者への新たな支援策が検討されている中で、全社協として、全国ネットワークをもつ社協の生活支援強化方針として決定したものです。

5つの行動宣言と アクションプラン

この方針は、現在の深刻な生活課題に応える社協活動の

5つの 行動宣言

「社協・生活支援活動強化方針」

地域における深刻な生活課題の解決や孤立に向けた行動宣言(抜粋)

社会福祉協議会は、住民主体を旨とする地域福祉推進の中核的な組織として、役職員が一丸となって、深刻な生活課題や社会的孤立などの新たな地域福祉の課題に向き合い、地域のあらゆる生活課題を受け止め、相談・支援や解決につなげ、誰もが安心して暮らすことができる地域に根ざした福祉のまちづくりに取り組みます。

1 あらゆる生活課題への対応

私たちは、地域住民から寄せられる多様な生活課題を受け止め、地域を基盤にして解決につなげる支援やその仕組みづくりを行います。

2 相談・支援体制の強化

私たちは、総合相談事業などの実績を活かし、総合相談・生活支援への取り組みを一層強化します。

3 アウトリーチの徹底

私たちは、アウトリーチ(地域に出向いていくこと)を徹底し、制度の狭間や支援につなげにくい生活課題を発見し、問題解決に向けた事業展開と支援のネットワークづくりに取り組みます。

4 地域のつながりの再構築

私たちは、住民主体の福祉活動を一層強化するとともに、ボランティア・NPO団体、地域の各種団体との協働の取り組みを広げ、地域のつながりの再構築を図ります。

5 行政とのパートナーシップ

私たちは、行政とのパートナーシップによる地域福祉施策の充実に取り組みます。

「社協・生活支援活動強化方針」の全体の内容は、本会ホームページでご覧いただけます。

URL
<http://www.shiso-wel.or.jp>

宍粟市社協

検索



出前お達者クラブ「第6ブロックのつどい」で参加者と話をする本会職員(1.24 鹿伏公民館)

市社協理事会で協議

宍粟市社協では、この方針について1月22日(火)の理事会で協議しました。

理事からは、「改めて地域のつながりを大切にしながら活動を進めていかなければならない」「地域とつながろうとしない人に、どのような働きかけをしていけばいいのか」「住民と福祉関係者が地域で気

方向性と具体的な事業展開について、5つの「行動宣言」と「アクションプラン」で構成されています。※上図参照

当事者に寄り添い 解決につながる支援を

そのためには、現在の「心配ごと相談」や「介護・福祉相談」を総合相談活動として強化するとともに、地域福祉担当者やヘルパーやケアマネジャーなど介護分野の職員との連携がこれまでに必要になります。

そして、深刻な生活課題を抱える人たちに寄り添い、解決につながる相談や支援を行えるよう、職員のスキルアップを図るとともに、アウトリーチ(地域に出向いていくこと)をさらに徹底し、社協の使命が果たせるよう取り組んでいく考えです。

また現行の福祉制度だけでは解決できないことや、制度と制度の狭間にある問題についても対応していかなければならないという意見も出しました。

や

まさき

出かけることが健康の第一歩!

老人クラブ女性部が研修会

1月31日
(木)、宍粟
防災センター
で山崎支部老
人クラブ連合
会の女性部が
研修会を開催
し、126名
が参加しまし
た。

この日は、
『健康づくり
で地域に元気を広げよう!』
をテーマに、栗木剛さん
(mottoひょうご事務局
長)の脳トレを交えた楽しく
軽快なトークで、笑いの絶え
ない研修となりました。

参加者からは「まず出か
けることが健康の第一歩。人
と話をしたり、挨拶の仕方
で脳トレにもなることが分か
った」「勉強になったし、よく笑
わせてもらった。帰ったらみ
んなに教えてあげたい」など、
前向きな感想が。



にぎやかに隣りの人と挨拶の練習
挨拶を少し工夫するだけで脳のトレーニング
になります!(宍粟防災センター)

「地域の活動や役員の仕事
なども自分の健康に役立って
います。みなさんの明るく楽
しそうな姿や挨拶が、地域に
元気を広げるきっかけになり
絆を強くすることにもつなが
ります」と、栗木さん。

この研修会をきっかけに、
老人クラブの活動がさらに活
発になり、近所に出かけるこ
とが増えて、地域に元気な挨
拶や声かけが広がることを期
待しています。

(山崎支部 森井裕矢)

い

ちのみや

2013年の抱負を語りました

能倉ふれあいサロン

1月生まれの誕
生日会から始まっ
た今月の能倉ふれ
あいサロン。

1月23日(水)、
今年初めてのふれ
あいサロンが公民
館で行われました。

誕生日会では、
3人の方に誕生日
カードが贈られ、
「こないに祝つても
ろてほんまにあり
がとう」と、嬉し
そうな姿が印象
的でした。

続いてビンゴゲーム大会
です。読み上げられる番号
に耳を傾けカードをチェッ
ク。「ビンゴ!」「番号が揃
たで!」との声があちらこ
ちらから…。

ビンゴゲームが終わり、
お茶やお菓子が用意され、
わいわいがやがやとティー
タイムの時間に。ここで、
今年の抱負を一人ひとり発
表しました。

「とにかく健康で」「一日
一回は笑う」「顔を合やす



一人ひとりの今年の抱負にあたたかい拍手が送られました
(能倉公民館)

ことが大切」「気持ちは年より
5つ若い」「サロンにできる
だけ参加したい」などなど…。
また、「一人でしょぼんとし
よんもあれやで!」との声に
は、サロンのような交流の場
が本当に大切であることを強
く感じました。

平成13年6月から始まった
能倉ふれあいサロンも11年が
経過。「また会おうで」「みん
な元気にやっついこな」…次
回の開催が今から楽しみです。
(本部・一宮支部 波多野好則)

は
が



絵札を探して小さい手で一生懸命

かわいい手のひらでカルタ取り

お母さん文庫が新年「カルタ会」

波賀文化創造センターで毎月2回、絵本や紙芝居を読む活動を続けている「お母さん文庫」。1月19日（土）は絵本を読んだあとに新年の行事として「カルタ会」を行いました。

カルタの勝負はみんな真剣。かわいい手で絵札を取り合いました。間違うと「お手つき！1回休みやで」と、ルールを教える子。取れた枚数を数えて「1番や」と喜ぶ子。「ちよつとだけや」とがっかりする子。何回かしているうちに読み手になる子もいました。

「お母さん文庫」は活動を開始して25年目となります。活動当初に参加していた子どもの中には、親となつている人もあります。息の長い活動が、世代を超えて子どもたちの心を育てています。



首から下げのおそろいのメダルは、一生懸命頑張った今日のご褒美(波賀文化創造センター)

(波賀支部 平 有利菜)

ち
くさ

介護はやっぱ笑顔と…

あゆみの会で新年会

今月の「あゆみの会」(在宅介護者の会)は新年会。

1月23日(水)、エーガイヤちくさを会場に10名の参加がありました。

食事のあとの歓談では、日頃の介護で思つたことを語り合い、「後悔したくないから出来ることはしてあげたい」

、「ケアマネに相談しながら、なんとか日が経つてくるかな。喧嘩しながらやけど…」などの声が聞かれました。

また「介護している時は参加する余裕もなかったけど、毎月もらう案内は楽しみにしてたんや」と初めて参加された方の声もありました。

穏やかに話をされている様子からは、日々の介護の大変さは計れません、悩みながらも笑顔を忘れず、気な



「介護はやっぱ笑顔と…、気ながにすることやね」(レストランエーガイヤにて)

がに向きあつておられることが伺えました。またお便りにつながるこの大切さも感じました。

共にぼちぼち歩んでいこうと始まった「あゆみの会」。あなたも参加してみませんか。

(千種支部 富田 裕子)

絶好の風あげ日和でした!

第38回 宍粟市新春風あげまつり入賞者

1月1日(元日)に一宮保健福祉センター周辺で実施された同まつりには、市内外から親子など52組が参加しました。当日はお天気に恵まれ、風の状態もよく、絶好の風あげ日和でした。審査の結果、下記の方々が入賞されました。(敬称略)

最優秀賞 風あげ大賞	下川 幸恵(田井)
優秀賞 宍粟市長賞	波多野泰一(東市場)
宍粟市教育長賞	平田 飛鳥(閨賀)
宍粟市議会議長賞	木村 栄典(夢前町)
宍粟市社協会長賞	松元 康晟(安賀)
JAハリマ組合長賞	中尾 允紀(五十波)
宍粟市商工会長賞	下川 康太朗(田井)
はりま一宮LC会長賞	溝脇 蒼磨(夢前町)
宍粟市子連協 一宮支部会長賞	山森 和也(東公文)
特別賞	中尾 光佑(五十波)

来年も元日に開催します。ぜひご参加ください。
播磨一宮風の会

安心したボランティア活動のために!

ボランティア活動中の“万が一”の事故に備えて

平成25年度 ボランティア・市民活動 災害共済

この共済は、ボランティア活動者自身がケガをした(傷害事故)、他人にケガをさせてしまった、他人の物を壊してしまった(賠償事故)などの事故に備えていただくためのものです。

補償期間: 平成25年4月1日
～平成26年3月31日

掛 金: 1名につき 500円

※個人でも団体・グループでも加入できます。
※昨年度加入グループについては、3月中旬頃にグループ代表者へ案内いたします。

△お問合せ: 各支部

ボランティア
センター日誌

伝えよう!

震災の経験と教訓を 1.17メモリアルウォーク2013



湊川神社前 震災当時を思い出しながら、5kmの道のりを歩きました

1月17日(木)

阪神淡路大震災から18年を迎えたこの日、神戸市で行われる1.17メモリアルウォークへ宍粟から39名が参加した。

神戸市立中央体育館を出発し、HAT神戸までの5kmの道のりを参加者はそれぞれの思いを胸に復興を感じながら歩いた。

三宮東遊園地では、全国から集まった竹筒で『1.17』の文字が作られ、犠牲者を追悼。ゴール地点の“人と防災未来センター”では追悼式典が行われ、阪神淡路大震災の教訓を伝えていくことの大切さを再確認する一日となった。(本部 田中祥仁)

読者の
感想より

早や18年ですヨネ。忘れる事のない1.17。できることを少しでも、1人、1人が心していく事が大切!!と思っています。(波賀町 女性)

雪遊びボランティア

寒さもへっちゃら!楽しいね!



かまくらづくりに挑戦!(ちくさ高原スキー場)

1月29日(火)・2月5日(火)

姫路市城南地区と飾磨地区の小・中学校特別支援学級の児童66名がちくさ高原スキー場で雪遊びを行った。

千種高校ボランティア部の生徒や民生委員、地元の住民の方もボランティアとして、10名が会場づくりや雪遊びのお手伝いを行い、ゲレンデには子どもたちの歓声が響いた。

そり滑り、かまくらづくりや雪合戦と、思い思いに雪遊びを楽しんでいる子どもたちの笑顔が生き生きとしていたのがよかった。

「来年もまた遊びに来てくれるといいな」とボランティアさんがつぶやいていた。

(千種支部 小原志のぶ)